

神戸YMCA学院専門学校社会体育学科、海洋スポーツ学科におけるレジャー・レクリエーション実習実践報告

「レジャー・レクリエーションの指導者として」

○小泉勇治郎 山下陽一郎 片岡 麻里（神戸YMCA学院専門学校福祉研究所）

キーワード：レジャー・レクリエーション、指導者、資格

1. 神戸YMCAにおける社会体育学科、海洋スポーツ学科

学科設立の目的

1980年代、国民の健康や、余暇に対する関心の高まりとともに、スポーツクラブ等のスポーツ・レクリエーション施設が増加しはじめた。その中において、早くからスポーツプログラムや、レクリエーションプログラムの提供を行ってきたYMCAは、指導者不足を感じ、1988年ウエルネスの概念を骨格に備え、社会体育の指導者を育成するために社会体育学科を開設した。当初その教育目標を達成するための一手段としてYMCAスクーバダイビングプログラムをカリキュラムの一つにとり入れたが。しかし、海洋性レジャーへの関心の高まりと、それに伴って活動中の事故発生が顕著になり、マリンスポーツを安全に指導できる指導者の育成の必要性を感じ社会体育学科より独立し、さらに専門的に海洋スポーツの技術と知識を身につけた指導者を育成するために1991年海洋スポーツ学科を開設した。

カリキュラム

社会体育学科	単位数	レクリエーション関連単位数
A. 人間・社会・自然	25	1
B. 体育・スポーツ及びレクリエーションの基礎科学	46	11
C. 経営・管理	9	4
D. 実技・指導法	46	6
E. 実習・演習	16	8
F. 研究・研修	21	16
	163	46
海洋スポーツ学科		
A. 人間・社会・自然	28	2
B. 海洋スポーツの基礎科学	14	2
C. スポーツレクリエーションの基礎科学	18	6
D. 海洋スポーツの経営と管理	10	4
E. 海洋スポーツの実技指導法	36	26
F. 実習・演習	12	8
G. 研究・研修	18	8
	136	56

取得資格

社会体育学科

健康運動実践指導者

YMCA社会体育インストラクター

レクリエーション・インストラクター

エアロビックダンスインストラクター

オーストラライフセービング協会ブロンズメダル

日本赤十字社水上安全法救助員

日本赤十字社救急法救急員

他

海洋スポーツ学科

潜水士

YMCAスクーパ'ダ'化'ソク'2スター'グ'イ'ハ'ー

1級小型船舶操縦士

C級ダイバー

オーストラライフセービング協会ブロンズメダル

日本赤十字社水上安全法救助員

日本赤十字社救急法救急員

2. 社会体育学科、海洋スポーツ学科の実習プログラム実践報告

レジャー・レクリエーションの体験そして指導者へ

プログラム名	野外活動実習(社)	スキー実習(社)	マリンスポーツ実習(海)
期間	5~6日間	5~6日間	
内容 目的など	集団生活の体験 野外活動の体験 マリソプログラムの体験	スキー技術の習得 スキー場でのレクリエーション体験 プログラムの運営	マリンスポーツ技術の習得 指導技術習得
プログラム名	アメリカ研修(社)	オーストラリア研修(社・海)	企業研修(社・海)
期間	約1カ月間	約1カ月	3~5週間
内容 目的など	フィットネスインストラクター研修 ホームステイ アウトドア体験	ライフセービングトレーニング アウトドア体験	フィットネスクラブ・スイミングスクール リゾートホテル・マリソ施設

学生は、各実習で実行委員会を組織し、将来指導者として必要な技術を習得するとともに、レジャー・レクリエーション指導者として必要な企画運営力を取得する。

取得技術の実践の場として

プログラム名	ビーチバトール	キッドピクス	阪神大震災ボランティア活動
期間	夏期		発生以来
内容 目的など	須磨海岸での ライフセービング活動	エアロビックスセミによる 親子エアロビックス	避難所などでレクリエーション活動

主として2年次に実施。レジャー・レクリエーション技術の実践の場として学生主導のプログラム。

3. まとめ

レジャー・レクリエーション指導者育成のための実習プログラムを紹介した。社会体育あるいは海洋スポーツというものは、おおむねレジャー・レクリエーションの範疇に入るものを多く含んでいる。そのため、本校では、まず体験学習の場としての実習プログラムを行い、その後取得した技術を活かす場としての実習を行っている。また、実習の運営を学生の手ゆだねることによって、卒業後、単なる技術の指導者としてでなく、プログラムの企画段階から実際の運営に至るまで関わることのできる人材育成を行っている。